

授業計画（シラバス）

リベラルアーツ科目

2年

クリックすると該当のページへジャンプします

- ・生涯スポーツと健康ⅡB
- ・現代社会と倫理
- ・社会と環境
- ・日本の近現代史
- ・メディア論A
- ・メディア論B
- ・シーズンスポーツ
- ・芸術鑑賞入門
- ・現代日本文化論
- ・日本語リテラシーⅡ（留）
- ・情報リテラシー演習（留）

科目名 (英語名)	生涯スポーツと健康ⅡB LIFELONGSPORTS AND HEALTHⅡB		科目コード	(ふりがな) 担当者	こいずみ あや 小泉 綾	専任・非常勤
			22LA10			専任
1 単位	開講期	前期	授業方法	実験・実習		
[履修条件、準備等]						
<ul style="list-style-type: none"> ・実技時の服装は、吸湿性・伸縮性のあるもので運動に最適であること。 ・運動靴は、体育館シューズ(室内履き)とテニスシューズ(外履き)を必ず用意すること。 ・実技は、各自体調を整えて参加すること。 						
[授業の具体的到達目標]						
<p>①自発的にスポーツに取り組むための知識や方法を理解する。</p> <p>②身体運動を行うことで自分の身体や精神の状態を把握し、自己の健康保持増進に役立てられるようになる。</p> <p>③他者と協力しながら一緒にスポーツに取り組むことを通じて、社会性を身につけコミュニケーション能力を高める。</p>						
[授業の概要]						
<p>「健康である」ということは、生涯において深く関わることであり、充実した生活を送るための基盤となっていることである。本講は、健康を保持増進することを目的としたさまざまな生涯スポーツを実施する。それらを通じ、自らの健康について考え、より豊かな生活を送るための知識や方法を身につけることを目的としている。</p> <p>主なスポーツ種目として、硬式テニス、ゴルフ、バドミントンを実施する。また、健康に関わる基礎知識として、「体力テストとその評価」と「生活習慣病」について学ぶ。</p>						
[授業計画]						[担当]
1 回	ガイダンス：前期で行う授業についての説明					
2 回	レクリエーションや軽運動①：ストレッチング、縄跳びなどによる身体慣らし					
3 回	レクリエーションや軽運動②：ストレッチング、縄跳びなどによる身体慣らし					
4 回	体力テスト					
5 回	体力テストの評価：「体力」とは何か					
6 回	硬式テニス①：グリップの握り方、ボールの打ち方、ラリーの方法					
7 回	硬式テニス②：ボレー、サーブの方法、試合の進め方(ダブルス・シングルス)					
8 回	硬式テニス③：ゲーム1(ダブルス・シングルス)、審判法について					
9 回	硬式テニス④：ゲーム2、まとめ					
10 回	ゴルフ①：グリップの握り方、ボールをクラブに当てる方法					
11 回	ゴルフ②：アプローチの方法、バターの方法、まとめ					
12 回	バドミントン①：基本的なラケットの操作(ストローク・サーブ・スマッシュなど)について					
13 回	バドミントン②：ゲームの進め方(シングルス・ダブルス)、ミニゲーム					
14 回	生活習慣病とは：生活習慣と健康との関係について					
15 回	実技のまとめ：自発的なスポーツ活動の計画・実施(卓球、バドミントン、テニスなどを選択)					
試験等	前期末試験を実施					
[成績評価]						
授業態度：40%・課題評価点(レポートなどの提出物の評価)：20%・実技評価(主に上達度を評価)、筆記試験：40%						
[準備学習(予習・復習等)の内容]						
取り上げるスポーツのルールについて調べる。また、体力テスト実施後に自己評価をする。これらをレポート課題とする。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	特になし					
[備考]						
<ul style="list-style-type: none"> ・上記以外の担当者：小西康仁(非常勤)、熊野陽人(非常勤)、遠藤慎也(非常勤)。 ・開講クラスによって担当者が異なるので、時間割で担当者の確認をすること。 ・質問は、オフィスアワー(時間は研究室前に掲示)かメールで受け付ける。koizumi@shohoku.ac.jp 						

科目名 (英語名)	現代社会と倫理 MODERN SOCIETY and ETHICS		科目コード 22LA24	(ふりがな) 担当者	ふじた じゅんこ 藤田 純子	専任・非常勤 非常勤
	2単位	開講期	前期	授業方法	講義／演習	
[履修条件、準備等] 日頃から新聞、テレビの報道番組を通して、社会の事に関心を持ちましょう。						
[授業の具体的到達目標] 1) 「考える習慣」を身につけます。 2) これから社会人になる学生の皆さんが、高い倫理観のある判断力をもって行動できる力を養います。						
[授業の概要] 倫理学では、善・悪についての判断をする根拠を勉強します。この授業では、時事問題もとりあげ、社会におけるさまざまなルールを考えることを目的にします。とりわけ「生命」や「人間の尊厳」をテーマに、私たちが直面している生、アイデンティティ、環境などの広い領域にわたる問題をわかりやすく検討していきます。その際、日本はもとより世界における事例について映像などを通して考えていく予定です。						
[授業計画]						[担当]
1回	ガイダンス					
2回	時事問題					
3回	いじめはなぜ起きるのか？					
4回	いじめ問題解決への模索：カナダの小学校の事例					
5回	虐待：親業認定試験は必要？					
6回	平等とは：徒競走での対処					
7回	子どもの貧困					
8回	国民年金をどう考えるのか？					
9回	人口70億人を地球は養えるのか？：食糧自給率、食料の廃棄率					
10回	難民問題の実態：中東、ヨーロッパ					
11回	商業捕鯨					
12回	環境問題と公害：水俣病					
13回	環境問題と原子力発電					
14回	地球温暖化の問題：異常気象					
15回	まとめ					
試験等						
[成績評価] 期末レポート＋小レポート(60%)、授業への積極的な態度(40%)を評価基準とします。						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 新聞記事を用いた「各テーマ」の探索を行います。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献						
[備考] 授業時、プリントを配布します。質問がある場合には授業終了後などに教室で受け付けます。						

科目名 (英語名)	社会と環境 Environment Literacy		科目コード	(ふりがな) 担当者	(おざお りこ) 小棹 理子	専任・非常勤
			22LA26			専任
2 単位	開講期	前期	授業方法	講義/演習		
[履修条件、準備など] 簡単な実験を行う回がありますので、動きやすい服装で出席してください。 グループ作業ですので、欠席しないこと。						
[授業の具体的到達目標] 第一に、社会人として必要な環境リテラシーを身につけることができます。 第二に、企業が行っている環境活動が理解できるようになります。						
[授業の概要] 社会の持続的な発展（サステナビリティ）を維持するためには、社会人一人一人が環境に対する正しい理解と行動を身につけることが必要です。本授業では、簡単な実験をとおして身近な環境問題を意識するとともに、「水」など、環境に直結した対象を科学的な視点から理解することを学びます。 また、グループで、企業の環境活動を調査し、発表します。その際には、エコマテリアルデータベース（Eco-MCPS）を足掛かりとします。これにより、社会における企業の責任や役割理解し、社会人として企業を評価する視点を身につけます。						
[授業計画]						[担当]
1回	ガイダンスー社会人に必要な環境リテラシーとは、本授業のすすめかた					
2回	“エコ”とは？（3Rと4R、リサイクルすればエコ？）					
3回	CO ₂ は悪者か？					
4回	都市鉱山（日本には金属資源がない??）					
5回	地球の中の日本ー越境汚染、PM2.5とは？					
6回	身近な環境問題ー水					
7回	水を調べてみよう-1（グループ作業：計画）					
8回	水を調べてみよう-2（グループ作業：実験）					
9回	水を調べてみよう-3（グループ作業：まとめ）					
10回	水を調べてみよう-4（グループ作業：発表）					
11回	企業の環境活動調査1 エコマテリアルとはーWebデータベースの紹介					
12回	企業の環境活動調査2 エコマテリアル Webデータベースの検索と調査					
13回	新しい環境活動事例1					
14回	新しい環境活動事例2					
15回	目に見えないから怖い、放射能の話					
試験等	水の実験結果のまとめと発表をグループで行っていただきます。					
[成績評価] 毎回のリフレクションペーパーと提出課題の点 60%+グループワーク評価点 40%						
[準備学習（予習・復習等）の内容] 授業で指定したキーワードやデータベース等を調査してください。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	毎回レジュメと参考資料を配布します					
参考文献	環境社会検定試験®（eco検定） 公式過去・模擬問題集 2015年度版	東京商工会議所	東京商工会議所			
[備考] 特別講師：神奈川大学 ^{にしもと} 西本 ^{ゆうこ} 右子先生 質問等はオフィスアワーを活用してください (小棹 研究室は 1号館 4F の 143 教室向いです)						

科目名 (英語名)	日本の近現代史 HISTORY of MODERN JAPAN		科目コード 22LA32	(ふりがな) 担当者	のぐち しゅういち 野口 周一	専任・非常勤 非常勤
	2単位	開講期 後期	授業方法	講義		
[履修条件、準備等] 特になし。 社会の動きや政治に関心をもつことは大切です。歴史系科目は暗記科目との認識があると思いますが、本来はそういうものではありません。したがって、本講義では暗記を求めません。						
[授業の具体的到達目標] ① 日本と近隣の韓国(朝鮮)・中国・台湾等の関係を理解し、説明することができる。 ② 日本と上記の国・地域の学生の歴史認識を理解する。 ③ そのうえで、日本と上記の国・地域間において、どのような関係が構築できるかを考える。						
[授業の概要] 少し前にマスコミをにぎわした麻生太郎氏(元首相)は九州の炭鉱王の家系です。その炭鉱採掘の労働力はどこから調達されてきたのでしょうか。また安倍晋三首相の祖父・岸信介元首相は、かつて「満州国」に深く関わっていました。「満州国」はどのように成立したのでしょうか。 本講義は日本の近現代史を韓国(朝鮮)・中国・台湾等から展望し、今後当該地域との関係をどのように構築していくかについて考えていきます。						
[授業計画]						[担当]
1回	オリエンテーション					
2回	日本と朝鮮(1) ドラマ『結婚の条件』から問題点を取り出します。					
3回	同上 (2) 「在日」って何でしょう。					
4回	同上 (3) 姜尚中氏をテレビで見たことがありますか。					
5回	同上 (4) 姜尚中氏には日本名があったのです、なぜでしょうか。					
6回	日本と中国(1) 日清戦争の「清」って何でしょう。					
7回	同上 (2) 「満州国」ってどこにあったのでしょうか。					
8回	同上 (3) 漫画家ちばてつや氏は「満州国」から逃げてきたのです。					
9回	同上 (4) 昔、李香蘭という中国名の日本人女優がいました。					
10回	日本と台湾(1) かつて「富士は日本一の山」でなかったことがあります。					
11回	同上 (2) 同居の祖母と孫娘に共通の言葉がなかった例があります。					
12回	日本と「南洋」(1) 「南洋」って何でしょう。					
13回	同上 (2) 「からゆきさん」と呼ばれる女性がいました。					
14回	同上 (3) 山崎朋子氏は「からゆきさん」について、なぜ調査をしたのでしょうか。					
15回	まとめ					
試験等	試験					
[成績評価] 試験:7割、授業への取り組み姿勢:3割。 なお、試験は資料持ち込み可で実施します。						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 予習:次回の講義予定個所の資料を読んでいただきます。 復習:その都度、学習内容を再確認していただきます。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	プリント適宜配布。					
参考文献	テーマに応じて紹介する。					
[備考] 質問がある場合には授業終了後などに教室で受け付けます。						

科目名 (英語名)	メディア論 A (Media Studies)		科目コード	(ふりがな) 担当者	(さとう ちひろ) 佐藤 知条	専任・非常勤
			25LA35			専任
2 単位	開講期	前期	授業方法	講義		
[履修条件、準備等] 自主的に学ぶ意欲のある学生の受講を歓迎する。						
[授業の具体的到達目標] 情報やメディアといった視点から社会を把握し、分析することができるようになる。 現代社会の課題について自ら考え、解決に向けて行動できる能力を養う。						
[授業の概要] 情報通信技術の進歩や発展に伴い私たちの生活やコミュニケーションのあり方が変化している。本講義ではさまざまなメディアが私たちの生活や思考様式をいかに変えたのかを歴史的に概観するとともに、将来のメディア活用の課題点について検討する。						
[授業計画]						[担当]
1 回	イントロダクション：メディア論の視座					佐藤
2 回	メディアとテクノロジーの現在地 (1)					佐藤
3 回	メディアとテクノロジーの現在地 (2)					佐藤
4 回	メディアの歴史 (1) 音声・文字					佐藤
5 回	メディアの歴史 (2) 漢字					佐藤
6 回	メディアの歴史 (3) 紙の実用化, 活版印刷					佐藤
7 回	メディアの歴史 (4) 新聞					佐藤
8 回	メディアの歴史 (5) 言語的メディアの歴史のまとめ					佐藤
9 回	メディアの歴史 (6) 電気技術					佐藤
10 回	メディアの歴史 (7) テレビ・マスメディア					佐藤
11 回	メディアの歴史 (8) コンピューターの歴史					佐藤
12 回	メディアの歴史 (9) 情報通信技術					佐藤
13 回	メディアとテクノロジーの展望 (1)					佐藤
14 回	メディアとテクノロジーの展望 (2)					佐藤
15 回	まとめ					佐藤
試験等	以下のとおり。					
[成績評価] レポート 50% : 授業中に紹介する参考文献(本学図書館に蔵書あり)を読み、まとめる趣旨のレポートを課すので、各自で自主的に読み進めておくこと。 平常点(毎回のリアクションペーパー) 50%						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 講義資料は事前に公開することがある。そのときは各自で印刷して持参すること。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	21世紀メディア論	水越伸	放送大学教育振興会			
[備考] 上記以外の参考文献：ハロルド・イニス『メディアの文明史』(新曜社, 1987年), マーシャル・マクルーハン『メディア論』(みすず書房, 1987年), ウォルター・J. オング『声の文化と文字の文化』(藤原書店, 1991年), グレアム・ターナー『カルチュラル・スタディーズ入門』(作品社, 1999年), ピエール・ブルデュー『メディア批判』(藤原書店, 2000年), アレッサンドロ・マルツォマーニョ『そのとき、本が生まれた』(柏書房, 2013年), ローター・ミュラー『メディアとしての紙の文化史』(東洋書林, 2013年)。これ以外に授業中に適宜紹介する。						

科目名 (英語名)	メディア論 B (Media Studies)		科目コード	(ふりがな) 担当者	(さとう ちひろ) 佐藤 知条	専任・非常勤
			25LA35			専任
2 単位	開講期	前期	授業方法	講義		
[履修条件、準備等] 自主的に学ぶ意欲のある学生の受講を歓迎する。						
[授業の具体的到達目標] 情報やメディアといった視点から社会を把握し、分析することができるようになる。 現代社会の課題について自ら考え、解決に向けて行動できる能力を養う。						
[授業の概要] 情報通信技術の進歩や発展に伴い私たちの生活やコミュニケーションのあり方が変化している。本講義ではさまざまなメディアが私たちの生活や思考様式をいかに変えたのかを歴史的に概観するとともに、将来のメディア活用の課題点について検討する。						
[授業計画]						[担当]
1 回	イントロダクション：メディア論の視座					佐藤
2 回	メディアとテクノロジーの現在地 (1)					佐藤
3 回	メディアとテクノロジーの現在地 (2)					佐藤
4 回	メディアの歴史 (1) 音声・文字					佐藤
5 回	メディアの歴史 (2) 漢字					佐藤
6 回	メディアの歴史 (3) 紙の実用化, 活版印刷					佐藤
7 回	メディアの歴史 (4) 新聞					佐藤
8 回	メディアの歴史 (5) 言語的メディアの歴史のまとめ					佐藤
9 回	メディアの歴史 (6) 電気技術					佐藤
10 回	メディアの歴史 (7) テレビ・マスメディア					佐藤
11 回	メディアの歴史 (8) コンピューターの歴史					佐藤
12 回	メディアの歴史 (9) 情報通信技術					佐藤
13 回	メディアとテクノロジーの展望 (1)					佐藤
14 回	メディアとテクノロジーの展望 (2)					佐藤
15 回	まとめ					佐藤
試験等	以下のとおり。					
[成績評価] レポート 50% : 授業中に紹介する参考文献(本学図書館に蔵書あり)を読み、まとめる趣旨のレポートを課すので、各自で自主的に読み進めておくこと。 平常点(毎回のリアクションペーパー) 50%						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 講義資料は事前に公開することがある。そのときは各自で印刷して持参すること。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	21 世紀メディア論	水越伸	放送大学教育振興会			
[備考] 上記以外の参考文献：ハロルド・イニス『メディアの文明史』(新曜社, 1987 年), マーシャル・マクルーハン『メディア論』(みすず書房, 1987 年), ウォルター・J. オング『声の文化と文字の文化』(藤原書店, 1991 年), グレアム・ターナー『カルチュラル・スタディーズ入門』(作品社, 1999 年), ピエール・ブルデュー『メディア批判』(藤原書店, 2000 年), アレッサンドロ・マルツォマーニョ『そのとき、本が生まれた』(柏書房, 2013 年), ローター・ミュラー『メディアとしての紙の文化史』(東洋書林, 2013 年)。これ以外に授業中に適宜紹介する。						

科目名 (英語名)	シーズンスポーツ SEASON SPORT		科目コード 22LA38	(ふりがな) 担当者	こいずみ あや 小泉 綾	専任・非常勤 専任
	1 単位	開講期	後期	授業方法	実験・実習	
[履修条件、準備等]						
<ul style="list-style-type: none"> ・スキーの基本技術や理論、文化について学ぶ意欲のある学生（スキー経験不問）。 ・「生涯スポーツと健康Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得済みの学生（これらの科目を再履修中の学生については、要相談とする）。 ・交通費、宿泊費、リフト券代金などの料金として、1人約¥35,000程度の費用が必要。 ・帽子、手袋、ゴーグル（サングラス）は、レンタルができないため、各自の用意が必要。 						
[授業の具体的到達目標]						
<p>①スノースポーツ、生涯スポーツの代表である「スキー」について、安全に楽しむ技術と方法をレベルに応じて身につける。</p> <p>②スキーを体験することで、それを取り巻く文化を学ぶ。</p> <p>③集団生活の中で他者と協力することを体験し、参加学生同士の交流を深める。</p>						
[授業の概要]						
<p>冬のシーズンスポーツの代表的なものに、「スキー」があげられる。スキーは、子どもから高齢者まで幅広い年代で楽しむことができる生涯スポーツの一つであり、冬の自然を満喫しながら楽しむことのできるスノースポーツでもある。本講では、その基本的な技術や技能について学び、実際に体験する。</p> <p>また、集中授業で宿泊を伴い、寝食を共にしながら行う授業のため、受講者同士が集団で生活をするにあたり協力し合い、交流を深め、社会性を身につけることを目的としている。</p>						
[授業計画]						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講は、冬期休暇中（12月末）に3泊4日の集中授業として開講する（予定）。 2. 実習場所は、長野県「白馬八方尾根スキー場」の予定。 3. 本講は、定員20名で開講する。受講希望者は、あらかじめ所定の期間に履修登録をすること。受講希望者が多い場合は、抽選し受講者を決定する。また、事前ガイダンスの時点で受講希望者が10名に満たない場合は、開講しない。 4. 受講者決定のための抽選会や履修に関わる詳しい内容についての説明会（事前ガイダンス）は、後期9月末ごろに連絡をする。受講希望者は、掲示を確認すること。 						
試験等	現地で班別に実施。					
[成績評価]						
実技点（進捗度）：30%、課題評価点（事前学習や実習記録などの提出物の評価）：30%、受講態度：40%						
[準備学習（予習・復習等）の内容]						
スキー用具の名称やスキーに関する用語など、実習の導入のため各自予習をすること（課題を配付する）。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	特になし（適宜資料を配付する）					
[備考]						
<p>①本講は、次の場合開講しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雪不足など、ゲレンデコンディションが悪い場合 ・事前ガイダンスで受講希望者が10名に満たない場合 <p>②受講希望者多数の場合は抽選をするため、受講できないこともある。これらのことから、卒業要件の単位としないこと。</p> <p>③受講決定後のキャンセルについては、キャンセル料を徴収する場合がある。</p> <p>④上記以外の担当者：必要に応じて外部講師を依頼する。</p> <p>⑤質問は、オフィスアワー（時間は研究室前に掲示）かメールで受け付ける。koizumi@shohoku.ac.jp</p>						

科目名 (英語名)	芸術鑑賞入門 Introduction to Art appreciation		科目コード 22LA40	(ふりがな) 担当者 伊藤善隆	専任・非常勤 非常勤
	1単位	開講期	後期	授業方法	演習
[履修条件、準備等] 特別な準備は不要です。ただし、受講に当たっては、対象と真摯に向き合う気構え・身構えを求めます。					
[授業の具体的到達目標] 西洋と日本の「古典」と呼ばれる芸術に関する知識を深め、その歴史と魅力を理解する。 社会人にふさわしい「知的好奇心」を養い、情緒・感情を豊かにする。					
[授業の概要] プリントやビデオを使用しながら、絵画・音楽・演劇などの芸術ジャンルについて理解を深めます。					
[授業計画]					[担当]
1回	ガイダンス・西洋の美術①(ルネッサンス・バロック)				
2回	西洋の美術②(ロココ・新古典主義・ロマン主義)				
3回	西洋の美術③(写実主義・印象主義)				
4回	クラシック音楽①(オーケストラに関する基礎知識①)				
5回	クラシック音楽②(オーケストラに関する基礎知識②)				
6回	西洋の舞踊芸術①(バレエ)				
7回	西洋の舞踊芸術②(バレエ)				
8回	西洋の舞台芸術①(オペラ)				
9回	西洋の舞台芸術②(オペラ)				
10回	西洋の舞台芸術③(オペラ)				
11回	日本の美術①(中世～近世の美術)				
12回	日本の美術②(近世絵画)				
13回	日本の伝統芸能①(能・狂言)				
14回	日本の伝統芸能②(文楽・歌舞伎)				
15回	日本の伝統芸能③(落語・まとめ)				
試験等	レポート				
[成績評価] 平常点(受講態度・コメントシートの提出状況)60%、期末レポート40%。					
[準備学習(予習・復習等)の内容] 予習・復習として、授業内容に関連する書籍を読んだり、DVDやCDを鑑賞したりすること。					
	書名	著者	出版社		
テキスト	プリントを配布します。				
参考文献	特になし。				
[備考] 映像資料を見て、分かった事と感想を書いてもらいます。授業終了後、教室または非常勤講師室で質問を受け付けます。 なお、履修希望者多数の場合は抽選です。質問がある場合には授業終了後などに教室で受け付けます					

科目名 (英語名)	現代日本文化論 Analysis of Japanese-culture		科目コード 25LA44	(ふりがな) 担当者	こもり きよし 小森 潔	専任・非常勤 専任
	2単位	開講期	後期	授業方法	講義	
[履修条件、準備等] 1. これまで知らなかったことに興味を持つ姿勢が必要です。 2. 出席のためだけに授業に参加し他の作業をする人、私語などで授業の邪魔になる人には、どんどん退室を命じます！ 3. 履修を希望する人は必ず1回目の授業に出席すること（詳細は掲示します）。						
[授業の具体的到達目標] 伝統的日本文化が現代にどのように継承されているかを探り、日本文化の特質について考察を深めることによって、国際社会における日本人としての意識が高まります。						
[授業の概要] 「落語」「能・狂言」「歌舞伎」「和歌・俳句」などの伝統的文化、また古くから受け継がれてきた日本の食や衣にふれ、日本文化の特質や日本独自の美意識について考察します。なお、理解を深めるために、毎回小テストを行います。 教室では座席を指定します。						
[授業計画]						[担当]
1回	ガイダンス、能・狂言にふれてみよう					
2回	落語1					
3回	落語2					
4回	日本文化と〈笑い〉					
5回	歌舞伎入門					
6回	現代に受け継がれる演劇の世界1					
7回	現代に受け継がれる演劇の世界2					
8回	現代に受け継がれる絵巻物の世界					
9回	現代に受け継がれる王朝の美意識					
10回	和歌と俳句ー日本文化と〈空白〉ー					
11回	日本の食の魅力					
12回	美男子の文化史					
13回	桜の文化史1					
14回	桜の文化史2					
15回	まとめ					
試験等	筆記試験					
[成績評価] 毎回の小テスト50%、学年末試験（筆記試験）50%の比率で評価する。						
[準備学習（予習・復習等）の内容] 翌週の授業内容を伝えるので、指示された予習をした上で授業に臨むこと。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	特になし					
[備考] オフィスアワーを設定します。時間を研究室扉に貼り出します。質問・相談に来てください。						

科目名 (英語名)	日本語リテラシーⅡ (留)		科目コード	(ふりがな) 担当者	こもり きよし 小森 潔	専任・非常勤
	Japanese Literacy Ⅱ		22LA02			専任
2単位	開講期	前期	授業方法	講義		
[履修条件、準備等]						
1. 授業時には国語辞典を持参すること。 2. 実技課題には積極的に取り組むこと。						
[授業の具体的到達目標]						
文章を「書く」トレーニングを繰り返すことによって、短大での学習に役立つ基本的な日本語運用能力、社会人として必要な日本語運用能力を身に付けることができます。また、就職活動で重要な「履歴書」や「エントリーシート・就職作文」が書けるようになります。						
[授業の概要]						
以下の①～⑤についてトレーニングしながら学びます。①話を聞く技術 ②メモする技術・ノートを取る技術 ③発言する技術(敬語の練習も含む) ④文章を読む技術 ⑤情報を得る技術 なお、就職試験対策として、SPI試験に役立つ知識を身に付けるための小テストも行います。						
[授業計画]						[担当]
1回	書き方入門:「書く」ことはなぜ難しいのか、考えてみよう					
2回	作文基本編1:家族や友人など、身の回りの人について書いてみよう					
3回	作文基本編2: //					
4回	作文応用編1:今、気になっていることについて書いてみよう					
5回	作文応用編2: //					
6回	意見文1:自分自身の意見を作ろう—新聞や雑誌の記事を読んで—					
7回	意見文2: //					
8回	手紙・葉書:基礎から学ぼう、就職活動にも必要な手紙のマナー					
9回	履歴書1:「私の特徴」「志望動機」が重要					
10回	履歴書2: //					
11回	履歴書3: //					
12回	履歴書4: //					
13回	エントリーシート・就職作文1:10枚の中の1枚に選ばれるには					
14回	エントリーシート・就職作文2: //					
15回	エントリーシート・就職作文3: //					
試験等	レポート					
[成績評価]						
毎回のコメントシート(学習への意欲、受講態度を含む)30%、課題40%、小テスト・レポート30%の比率で総合的に評価する。						
[準備学習(予習・復習等)の内容]						
テキストを事前に読んでおく(予習)。テキストを見直し、間違えて解答した箇所を確認する(復習)。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	『日本語リテラシー』	伊藤善隆・小森潔監修	新典社			
参考文献	特になし					
[備考]						
オフィスアワーを設定します。時間を研究室扉に貼り出します。質問・相談に来てください。						

科目名 (英語名)	情報リテラシー演習 (留)		科目コード	(ふりがな) 担当者	(おざお 小棹 りこ 理子)	専任・非常勤
	Information Literacy Practice (SELIC)		22LA06			専任
1単位	開講期	後期	授業方法	演習		
[履修条件、準備等]						
<ul style="list-style-type: none"> ・前期開講の「情報リテラシー」の単位を修得していること ・各自 USB メモリを持参すること 						
[授業の具体的到達目標]						
<p>① 情報リテラシーで修得した基本的なコンピュータスキルを活用して、自ら問題を発見し、解決するための方法論を身につける。具体的には、表計算ソフト (Microsoft Excel) の操作スキルを身につけ、これを問題解決のために活用できるようになる。</p> <p>② その他ビジネスや生活に有用なソフトウェアなども活用できるようになる。</p>						
[授業の概要]						
<p>高度に情報化された現代社会におけるコンピュータやインターネット、さらには情報の役割と意義について考え、職業を持った社会人として必要な知識と技能を身につけます。アプリケーションソフトの使い方だけでなく、これらツールとして使い、あらたな価値や知見を見出す智恵を養います。</p> <p>具体的な内容は、下記の授業計画のとおりです。12回目以降は、学科・フィールドにより異なります。</p>						
[授業計画]						[担当]
1回	MS-Excelの基本操作				三笠・井上・近藤・須藤・高橋	
2回	ワークシートの活用1 (基本計算・関数)				三笠・井上・近藤・須藤・高橋	
3回	ワークシートの活用2 (表示、相対参照、絶対参照)				三笠・井上・近藤・須藤・高橋	
4回	ワークシートの活用3 (論理関数、スパークライン)				三笠・井上・近藤・須藤・高橋	
5回	グラフ1 (基本グラフ)				三笠・井上・近藤・須藤・高橋	
6回	グラフ2 (その他グラフ)				三笠・井上・近藤・須藤・高橋	
7回	Excelの応用1 (順位づけ)				三笠・井上・近藤・須藤・高橋	
8回	Excelの応用2 (検索)				三笠・井上・近藤・須藤・高橋	
9回	Excelの応用3 (文字列操作)				三笠・井上・近藤・須藤・高橋	
10回	Excelの応用4 (データベース関数)				三笠・井上・近藤・須藤・高橋	
11回	Excelの応用5 (シート間の計算)				三笠・井上・近藤・須藤・高橋	
12回	ExcelとWordの連携操作 / プレゼンテーションの資料作成①				三笠・井上・近藤・須藤・高橋	
13回	データベース入門 / プレゼンテーションの資料作成②				三笠・井上・近藤・須藤・高橋	
14回	データベース (操作) / プレゼンテーションの資料作成③				三笠・井上・近藤・須藤・高橋	
15回	データベース (抽出・集計) / プレゼンテーション発表会				三笠・井上・近藤・須藤・高橋	
試験等	スキルチェック・課題提出があります。					
[成績評価]						
授業課題75%、最終課題25%で評価します。						
[準備学習 (予習・復習等) の内容]						
<p>2回目以降は、テキストの該当箇所を読んで、事前に内容の理解に努めてください。</p> <p>タイピングの練習を行ってください。</p>						
	書名		著者		出版社	
テキスト	・30時間でマスター Excel2013		実教出版編集部		実教出版	
参考文献	・社会人として必要な情報リテラシー		情報リテラシーテキスト執筆グループ		湘北短期大学	
[備考]						
<p>上記以外の担当者: <small>みかさとしや</small> 三笠俊哉、<small>いのうえりゅうのすけ</small> 井上竜ノ介、<small>こんどうさほこ</small> 近藤佐保子、<small>すとうちあき</small> 須藤智亜紀、<small>たかはしゆうこ</small> 高橋木綿子</p> <p>質問等は各担当の先生を非常勤講師室にたずねてください。</p>						